

(駿府学園)

【作品】

キラキラと 輝く木漏れ日 いつの日か 僕が目にした 母の涙か

【講評】

きらめく木漏れ日を母の涙にたとえた、切なくも美しい歌です。それは作者に向けられた涙だったのか、それとも一人ひっそりと泣いていたのか。いずれにしても作者はその涙を美しいと感じたからこそ、木漏れ日にいつかの母の涙が思い出されたのでしょう。やわらかな感受性が光ります。

【講評者名】

吉村実紀恵